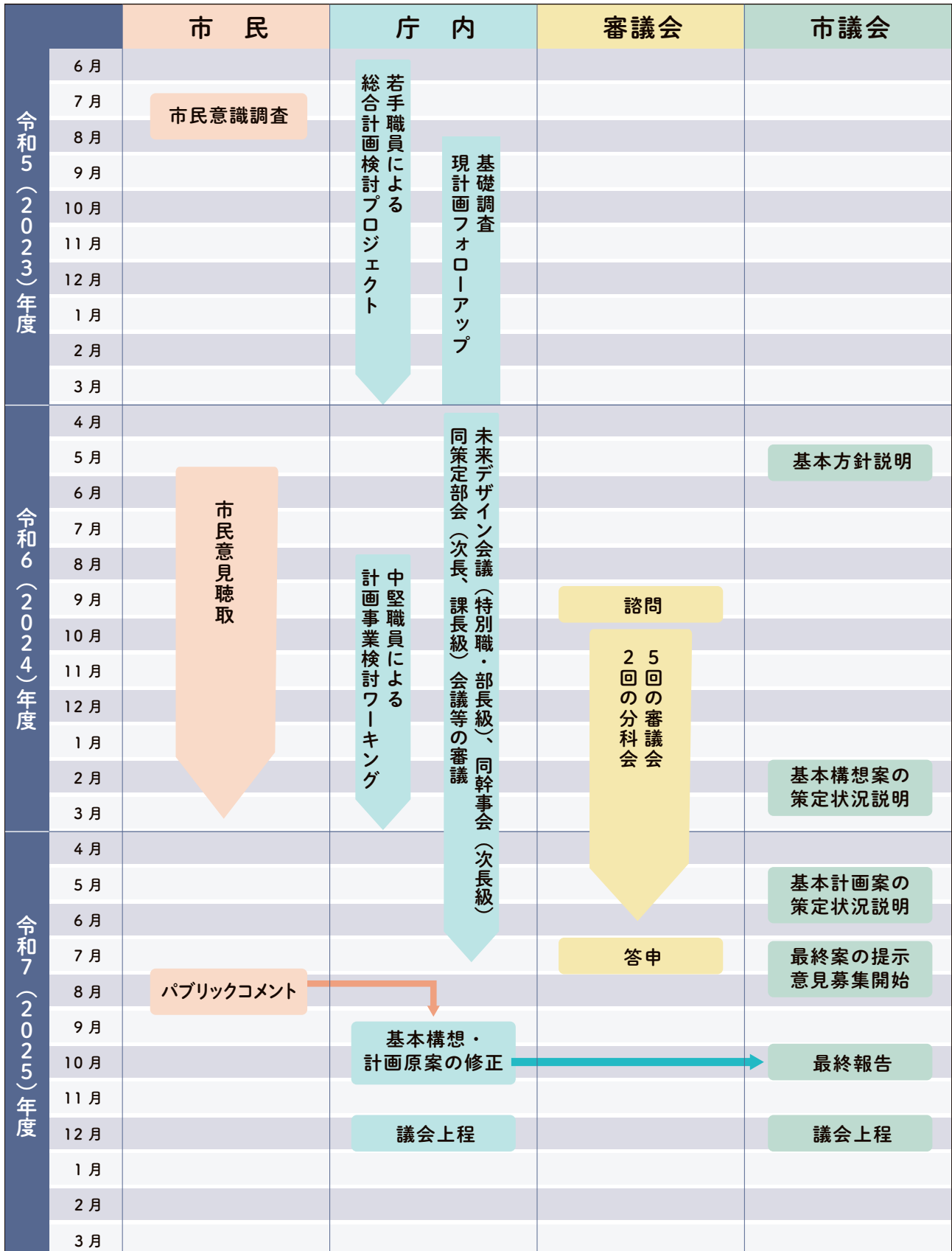


資料編

久留米未来デザイン計画

KURUME
DESIGN

策定全体スケジュール



久留米市総合計画審議会

未来デザイン計画 2035 の策定にあたっては、多方面からの議論を頂くため、市議会や公共的団体、学識経験者等 31 名からなる総合計画審議会に諮問し、意見の答申を受けました。

※役職名は R6 年 9 月委員委嘱時点の役職名

役職名	委員名	所属分科会
久留米市議会議員	堺 太郎	都市づくり
久留米市議会議員	山 崎 ケブン	つながりづくり
久留米市議会議員	山 下 尚	都市づくり
久留米市議会議員	石井 秀夫 (～ R7.6)	活力・魅力づくり
	吉富 巧 (R7.7～)	
久留米市教育委員会教育委員	江 頭 理 江	つながりづくり
久留米商工会議所専務理事	穴 見 英 三	活力・魅力づくり
久留米市農業協同組合専務	檜 橋 裕 章	活力・魅力づくり
久留米市校区まちづくり連絡協議会幹事	○ 永 松 千 枝	つながりづくり
久留米市民生委員児童委員協議会 主任児童委員部会長	佐 田 典 子	つながりづくり
久留米市地区環境衛生連合会会長	柴 本 喜久男	都市づくり
久留米市人権啓発推進協議会幹事	西 村 英 治	つながりづくり
久留米男女平等推進ネットワーク事務局長	堀 田 富 子	つながりづくり
一般社団法人久留米青年会議所副理事長	元 石 征 吾	活力・魅力づくり
公益財団法人久留米文化振興会 久留米市美術館副館長	森 山 秀 子	活力・魅力づくり
一般社団法人久留米医師会副会長	大 治 太 郎	つながりづくり
久留米市障害者地域生活支援協議会会長	片 岡 靖 子	つながりづくり
福岡県防災士ネットワーク事務局長	矢 野 彰	都市づくり
連合福岡北筑後地域協議会事務局長	樋 口 孝 司	活力・魅力づくり
久留米大学副学長	◎ 荒 井 功	—
久留米工業大学教授	小 田 まり子	活力・魅力づくり
聖マリア学院大学理事長代理兼教授	井 手 悠一郎	つながりづくり
久留米工業高等専門学校教授	酒 井 道 宏	都市づくり
福岡地域戦略推進協議会事務局長	石 丸 修 平	都市づくり
一般社団法人久留米銀行協会常務理事	首 藤 有 一	活力・魅力づくり
NPO 法人久留米ブランド研究会 事務局長	矢 次 恵美子	活力・魅力づくり
西日本鉄道株式会社まちづくり・ 交通・観光推進部長	吉 中 美保子	都市づくり
グリーンコープ生活協同組合 ふくおか副理事長	永 井 洋 子	つながりづくり
久留米市市民活動サポートセンター みんくるセンター長	翁 昌 史	つながりづくり
株式会社キャリアリード代表	佐 藤 有里子	活力・魅力づくり
久留米市キャラバンメイト連絡会理事長	堀 江 桃 子	つながりづくり
NPO 法人子育て支援ボランティア くるるん理事長	福 田 桂 子	つながりづくり

※氏名頭の◎が会長、○が副会長

策定における市民参画

未来デザイン計画 2035 の策定にあたっては、多くの子どもたちを含む市民の皆さんの意見や提案を反映させるため、次のような市民参画の機会を設けました。

01 市民アンケート（第1弾）

「久留米の好きなところ」「未来の久留米に残したいところ」「未来のイメージ」について、WEB アンケートやくるモニ、土曜夜市などへの出店、学校訪問などを通じてアンケートを実施しました。

- (1) 実施期間 令和6年6月1日～7月31日
- (2) 回答件数 1,226 件

02 市立小中学校等訪問

総合政策課の職員が市内の小中学校等へ出向き、授業を通じて子どもたちの意見聴取及び久留米市への愛着をもってもらうための出前授業を実施しました。

- (1) 実施期間 令和6年5月～令和7年2月
- (2) 訪問数 小学校4校、中学校3校、高校1校、特別支援学校1校

03 関係団体との意見交換会

絆補助金の採択を受けている市民活動団体や、様々な分野において支援活動を行っている団体等と「団体の困りごと」や「住みよいまち久留米に必要なことは」をテーマに意見交換会を実施。

- (1) 実施期間 令和6年8月28日
- (2) 参加人数 16 団体 21 人



04 市民アンケート（第2弾）

「人口減少が進むことで久留米にとって深刻だと感じること」や「そのことに対する自身への影響」「課題を踏まえた上でどのようなまちになってほしいか」などのアンケートを DM で実施。

- (1) 実施期間 令和6年8月1日～10月31日
- (2) 聴取方法 無作為抽出 3,000 人へ DM を送付。インターネット及び郵送による回答にて意見を聴取。
- (3) 回答件数 853 件

05 ワークショップの実施

市民アンケート第2弾で対象者のうち申込者及び一般公募による市内外の希望者により、次期総合計画終了年度の2035年度をイメージしながら、市民のまちづくりへの思いについてワークショップ形式で意見交換を実施。

- (1) 実施期間 令和6年9月27・29日、10月9・12日
- (2) 実施回数 第2弾アンケート対象者向け3回、一般公募向け2回
- (3) 参加者数 85人



06 未来デザイン計画 2035 市民説明会&ワークショップ



次期総合計画案を、広く周知するとともに、今後のまちづくりについて、多くの人の意見を聴取することを目的とし、意見交換をワークショップ形式で実施。

学生向けワークショップ

令和7年7月12日開催、参加人数 22人

市民活動団体向けワークショップ

令和7年8月7日開催、参加人数 24人

一般市民向けワークショップ

令和7年8月24日（午前・午後開催）、参加人数 計32人

07 パブリック・コメントの実施

- (1) 募集期間 令和7年8月7日～9月5日
- (2) 募集結果 64件（11名、4団体）

用語解説

あ行	EBPM (イー・ビー・ピー・エム)	Evidence Based Policy Making (エビデンス・ベースト・ポリシー・メーカーキング) の略称。政策の目的を明確にし、統計や業務データなどの客観的な証拠に基づき、政策を立案すること。
	インナープロモーション	自治体が市民や事業者に対して、自治体の魅力や取り組みを伝えることで、愛着や誇りを持ってもらうための活動のこと。
	SNS (エス・エヌ・エス)	Social Networking Service (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) の略称。LINE や Instagram などのインターネット上のコミュニティサイト。
	エリアマネジメント	地域における良好な環境や価値を維持・向上させるための、住民、事業主、地権者などによる主体的な取組のこと。
	オープンイノベーション	企業が外部の知識や技術を取り入れて、それまでの知識や価値観から脱却すること。
か行	観光ブランディング	ある地域を訪れる観光客に対して、その地域が持つ魅力や価値を明確に伝え、ブランドとして認知してもらうための戦略。
	基幹相談支援センター	地域における障害のある方の相談支援の拠点として、あらゆる障害に対する総合的な相談業務や、相談支援事業所に対する支援等の業務を実施する機関。
	グローバル化	社会的・経済的に国や地域を超えて世界規模でその結びつきが深まること。
	コミュニティ・スクール	学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていく仕組み。
	コンベンション	学会や特定のテーマの関係者が一同に集まり意見交換や情報収集を行う大規模な会議や大会等。
さ行	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど、自然界に存在する資源を繰り返し利用できるエネルギー。
	社人研	「国立社会保障・人口問題研究所」の略称。日本の人口推計、少子高齢化などを専門的に調査・研究し、将来の政策立案の基礎資料を提供する国の機関。
	ジェンダー	これが男らしい、これが女らしいと決めるなど、社会や文化の中で作られた、性別に対する考え方。
	史跡筑後国府	「筑後国」を治める役所「国府」として、政庁を中心に国司館・役人の屋敷・市場・鍛冶工房などが設けられていた場所。1996年に国の史跡に指定。
	集落営農組織	集落を単位として、農業生産過程の全部又は一部について共同で取り組む組織。
	スマート IC	高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリアなどから乗り降りができる料金所が ETC 専用の簡易的な構造となったインターチェンジ。
	スマート農業	ロボット技術や ICT (情報通信技術) などの先端技術を活用し、農業の生産性や効率性を高める取組のこと。
	生活自立支援センター	くらしや仕事に困りごとを抱えている方の相談窓口。
	生物多様性	生き物の豊かな個性と、それぞれが支え合って生きているつながりのこと。

さ行	ZEH (ゼッチ)	Net Zero Energy House (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス) の略称で、住宅におけるエネルギー収支をゼロにすることを目標とした住宅のこと。
	ZEB (ゼブ)	Net Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) の略称で、快適な室内環境を保ちながら、建物におけるエネルギーの収支をゼロにすることを目標とした建物のこと。
	セルフケア	自分自身でできる範囲で、心身の健康を維持・増進するために行うケア。
た行	多文化共生	国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。
	地域共生社会	世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会のこと。
	地域包括支援センター	介護、健康、虐待防止、権利擁護など、高齢者の日常に関する相談や支援を行うところ。
	デジタルコンテンツ	文章・画像・音楽などの作品をデジタルデータとして加工し、そのままのデータ形式で消費者に提供されるもの。
な行	認定農業者	意欲と能力を有し計画的に経営改善を進めていく農業者であると市町村の認定を受けた農業者や農業法人。
	農福連携	障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参加を実現していく取組のこと。
ま行	MICE (マイス)	企業等の会議 (Meeting) や報奨・研修旅行 (Incentive Travel)、大規模な会議や大会 (Convention)、展示会やイベント (Exhibition/Event) の頭文字を取った造語で、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。
	メンタルヘルス	心の健康状態のこと。
や行	やさしい日本語	外国人やこども、高齢者など、様々な人が理解しやすいように、難しい言葉や表現を避けて、より簡単な日本語で表現すること。
	ヤングケアラー	本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っているこども・若者のこと。
	UIJ (ユー・アイ・ジェイ) ターン	地方から都市部へ移住した後に再び地方に戻る (U ターン)、また都市部以外に住む (I ターン)、地方から都市部へ移住し、その後地方の近くの都市に移住する (J ターン) こと。
ら行	ライフコースアプローチ	胎児期から高齢期に至るまでの人の生涯を経時的に捉え、健康を維持・増進していく考え方。
	リカレント教育	社会人が仕事と学びを交互に行い、生涯にわたって学び続けることで、スキルや知識を向上させること。
	6次産業化	農林水産物 (1次産業) の生産に加え、加工・製造 (2次産業) や流通・販売 (3次産業) までを農林漁業者が手掛け、経営を多角化することで付加価値を高め、所得向上と雇用確保を目指す取組のこと。
わ行	ワーク・ライフ・バランス	「仕事」と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった「仕事以外の生活」との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方。